

## 三重県のカノコソウの栽培



九鬼産業株式会社 大岩 優貴  
TEL 059-350-2050  
Mail: [y\\_ooiwa@kuki-info.co.jp](mailto:y_ooiwa@kuki-info.co.jp)

1

## 九鬼産業について

### 業務概要

商号 九鬼産業株式会社  
本社 三重県四日市市尾上町11番地  
創業 1886年（明治19年）  
設立 1951年1月  
従業員数 約200名  
業務内容 各種ごま製品の製造・販売・輸出  
林業・農業関連事業  
代表取締役社長 田中 啓之



創業当時の本社工場

## 九鬼産業について



## カノソウとは

- カノソウ (*Valeriana fauriei* Briquet)
- ・古くから栽培されてきた薬用植物
- ・乾燥した根は医薬品の原料として使用される
- ・国内需要をほぼ国産でまかなっている。
- ・収穫後、地上部を取り去り根をよく洗浄して、乾燥したものを出荷。



## カノコソウを使用した市場製品例



女性保健薬 命の母A 第2類医薬品



小林製薬「命の母A」 ツムラ「ラムールQ」 日本薬品「サフロン」

日本では婦人薬の原料として用いられている。  
 欧米では伝統的に催眠鎮静剤として用いられている。

## カノコソウ栽培暦



## 三重県カノソウ栽培の特徴

冬の寒いうち11月～2月定植  
次年度の11月～2月に収穫

収穫後の調整に手作業が多く  
露地野菜型の作業体系

- 応用可能な機械  
定植：野菜苗定植機  
収穫：芋掘り機・プラウ  
洗浄：根菜洗浄機  
乾燥：棚式乾燥機



掘り取ったカノソウ



洗浄したカノソウ

## カノソウの収量について

- 収量目標  
乾燥根重量 300kg/10a
- 収量をあげるための気を付けているポイント
  - ・定植前の株の消毒  
(ベンレート水和剤)
  - ・地温を上げないようにする  
(密植・夏場に生育を確保)
  - ・雑草に負けない栽培管理  
(初期成育を確保する)



乾燥中のカノソウ



## 定植用苗作り

● 分割  
カノコソウの株を洗浄し、  
芽が2-3個となるように分割する。

● 消毒  
三重県では白絹病が起こりやすい  
病害予防のため、  
ベンレート水和剤で消毒する。



9

## 圃場の選定と準備

● 排水の良い圃場を選ぶ  
特に夏季の病害防止の観点から排水性を重視  
また収穫時に土壌の付着を防ぐ観点からも  
固結しにくい土壌が適する（黒ぼく土壌、砂質土壌など）

● 病害を防ぐために  
特に水田では周囲溝の設置と高畝  
（15～20cm）への定植が望ましい。



● 連作障害に注意  
土壌栄養の偏りと細菌病害による連作障害回避のため  
同じ圃場で栽培する場合には3-4年あける  
また次作のために堆肥をたくさん（2～4t）施用する

10

## 肥料

### ● 肥料について

栽培期間が長く、吸肥力も強い

次期作以降の連作障害回避のため、堆肥メインに施用

堆肥・土壌改良材は定植の20日前までに全面施用し耕起。

### ● 施用量（10aあたり）

堆肥：牛ふん 2,000 kg

苦土石灰：100 - 200 kg

化成肥料・有機配合肥料等：窒素5～10kg/10a

葉色や生育を見て、6～8月に必要に応じ追肥する。

油粕：100 kg

化成肥料・有機配合肥料等：窒素5kg/10a前後

11

## 使用できる主な農薬の一覧

### ● 詳細は各剤の添付資料を参照してください。

分析を実施する必要がありますので、使用前にご相談ください。

薬剤名	適用病害虫	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量
トレファノサイド乳剤	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	300ml/10a	全面土壌散布	定植後萌芽前(雑草発生前)(但し、収穫120日前まで)	1回	100L/10a
セレクト乳剤	一年生イネ科雑草	75ml/10a	雑草茎葉散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫45日前まで)	1回	100L/10a
ザクサ液剤	一年生雑草	300～500ml/10a	雑草茎葉散布	収穫14日前まで(雑草生育期定植前又は畦間処理)	2回以内	100～150L/10a
ベンレート水和剤	半身萎凋病	160倍	30分間苗浸漬	植付前	1回	-
Zボルドー	褐斑細菌病、黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病、斑点細菌病、べと病	500倍	散布	-	無制限	100～300L/10a

12

## 定植

- 定植株について  
収穫した根の一部を株分けし、  
次年度の定植に用いる。  
(苗は九鬼産業より提供)  
定植適期：11月～2月

- 株数・株間  
畝間・条間は管理機等に合わせる。  
株間20～30cm程度で定植する。  
1反あたり4000～5000株程度



13

## 定植



14

## カノソウの生育

イチゴのようにランナーで株が分かれて横に幅広く広がっていく  
畝を完全に覆うと病害・雑草・暑さに強くなり収量上がる。



横に広がるスペースを確保し、畝をカノソウのみにする栽培が重要。

- ・密植気味に植える
- ・成長に合わせてマルチに切れ目を入れる・マルチをはがす

15

## 最盛期の生育



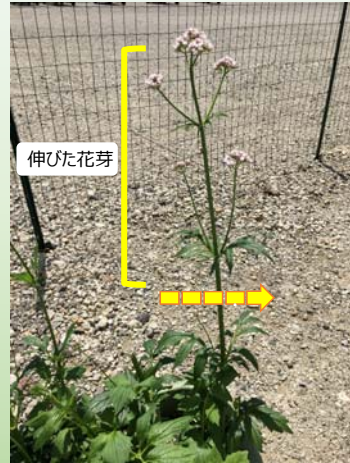
16



## 摘蕾

4月下旬～6月上旬  
株の成長・収量増のため、  
花が咲き終わる前に花芽を摘む

または花芽だけ上に伸びてくるため、  
刈払い機などで一気に処理



17

## 開花期のカノコソウ



18

## 除草管理

- 早め早めの除草を心がける
- ・ 定植前に2～3回耕起し雑草を処理。
- ・ 収量増には春期より初夏までの管理が最重要。
- ・ 初夏まではマルチが有効。
- ・ 畝間では中耕培土が効果的
- ・ 除草剤は別表参照。

マルチあり・株元の除草1回 4月



マルチ・除草なし4月



19

## 病害虫管理

害虫被害は少ないが、夏場にかけて細菌病が発生する。

- ・ 白絹病  
株元に白カビが生え、菜種粒状の菌核が見られる
- ・ 半身萎凋病  
夏の暑い日に地上部が急激に立ち枯れする

- 対処  
罹病株は周囲の土ごと掘り取り畑の外に捨てる。  
感染拡大予防にはボルドーZ散布。
- 予防  
株消毒の徹底・高畝・明渠による排水管理。  
連作は避ける。

白絹病



半身萎凋病



## 病虫害管理



21

## 病虫害管理



22



## 病虫害管理



奇形（帯化？）



奇形（帯化？）

基本的には全て掘り取って圃場外へ捨てる又は燃やす

23

## 獣害はあまりない



シカの足跡



食害の跡

24



## 収穫

11月～1月

葉が枯れ始めたら収穫可能

根を掘り取り、地上部を取り去る。

洗浄できる分だけ少しずつ収穫していく。

芋掘機が使用可能。

動力噴射機などで畑で土を落としておく。

12月 収穫期のカノコソウ



シャベル掘り



芋掘り機



動力噴霧器による予備洗浄

25

## 収穫

12月 収穫期のカノコソウ



芋掘り機での機械収穫



26

## 収穫

手作業での収穫



掘り取ったカノソウ



27

## 洗浄

もっとも重要・手間のかかる工程

小さく洗やすいサイズに分割した後、  
動力噴射機・流水等を用いて  
根と根の間の土・石を完全に除去する

根菜洗浄機やコンクリミキサーなどが活用可能

根菜洗浄機



分割



洗浄



洗ったカノソウ

28

## 洗淨



29

## 洗淨



30



## 乾燥

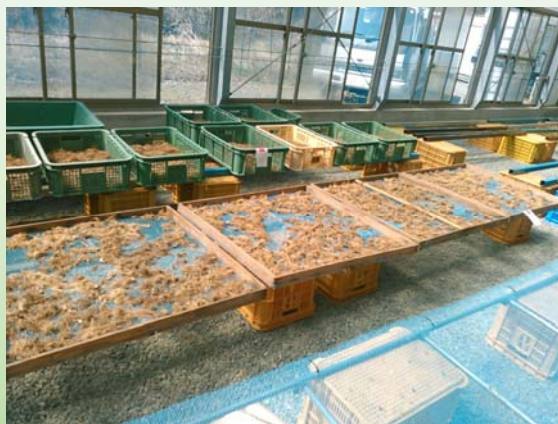
洗浄したカノコソウ根を、根を伸ばした状態で網の上に広げ、ビニールハウス内など雨の当たらない場所で乾燥  
晴天時には屋外乾燥しても良い。  
干し椎茸用の棚式乾燥機なども使用。

一ヶ月前後で根が乾麺のようにパリパリになったら乾燥完了。



31

## 乾燥



32



## 出荷前のチェック・選別

目視・トーマ（風選）等で異物を取り除く。



33

## 出荷 2

- ・洗浄・乾燥時に折れた根も混ぜて出荷可能。  
明らかな雑草根や石、微塵は取り除く。
- ・出荷の際は20kgの米袋に充填している。
- ・出荷まで通気性の良い場所で保管。



34